

グローバル化のもとで学術研究に対応した生物材料譲渡契約書の検討

中山 朋美 (筑波大学 生物学類) 指導教員: 渡邊 和男 (筑波大学 生命環境系)

背景・目的

従来、生物学研究において、研究者どうしの研究材料の提供や交換は比較的自由に行われてきた。材料譲渡の自由が学問や産業の発展に貢献してきたともいえる。しかし、今日では所有権と成果の担保のために研究材料の譲渡は契約書に基づいて行わなければならない。例え学術研究が目的であったとしても例外ではない。研究材料譲渡の際に、提供者と受領者の合意事項として、権利の所在や使用条件・利益分配等について明文化したものがMTA(Material Transfer Agreement: 材料譲渡契約書)である。研究者はMTAの条件に基づき研究・研究発表・研究成果の利用を行わなければならない。MTAの目的は提供者・受領者双方の権利保護と交渉の簡易化、そして将来起こり得る問題を未然に防ぐことである。現在もっとも一般的に使われているMTAとして、UBMTA(Uniform Biological Material Transfer Agreement)が挙げられる。これは米国のNIH(National Institute of Health)とAUTM(Association of University Technology Manager)が生物遺伝資源の材料譲渡に使用する統一のMTAとして作成したものである。米国をはじめ、多くの海外大学・研究機関で、学術目的の材料譲渡におけるスタンダードになりつつあるといえる。一方このUBMTAが生物多様性条約(CBD: Convention of Biological Diversity)に対応しているとは言えず、MTAの国際条約対応は課題として挙げられている。先行研究として、UBMTAと日本国内の大学・研究所で使用されているMTAを比較し、それぞれの条項の有無が調査されている。その結果をもとに、条項の取捨選択、生物遺伝資源だけではなく広く生物資源を対象として利用できること、グローバル化と諸国際法へ対応することを目指した統一のMTAフォームを作成することにより、材料譲渡における問題を解決できると考えられる。本研究ではグローバル化に対応した統一のMTAフォームを作成することにより、現在抱えているMTAの問題点を解決することを目的とする。そして統一のMTAフォームが使用されることで、材料譲渡の面から生物学研究の発展・促進や研究者の権利保護に繋げたい。

調査

1) MTA間の比較

a. UBMTA, BMTA, MTAハンドブックなどMTA関連の媒体に記載されている条項を整理し、一覧としてまとめた。

b. 生物多様性条約などの国際条約と対応させること、生物遺伝資源だけではなく生物資源全般を対象とすることを目的に、条項・表現の取捨選択を行った。

2) グローバリゼーションに対応した新たな生物資源の材料譲渡契約書の作成

日本国内だけではなく、国際条約に対応することにより世界各国で使用可能な生物資源の材料譲渡契約を新たに作成する。必要な

条項を並び替え体裁を整え、英語版も作成することによりuniversal formとして提案する。

結果・考察

1) 後に取捨選択を行うことを前提とし、条項をまとめ、一覧にした。各MTAを整理した結果、用語の使用方法など異なる点が多数存在した。特に生物多様性条約をに加盟していない米国が作成したUBMTAは、表記の異なるものも見受けられた。

特に、従来のものは倫理面へ配慮しなければならないという認識が薄いことが分かった。

2) 生物多様性条約や名古屋議定書の決定に基づき、条件や表現を取捨選択した結果、統一のMTAフォームの内容は以下のようになった。倫理面への配慮は序文と目的に盛り込んだ。主な内容は、生命倫理への配慮、国内外の法律の理解と遵守、社会的責任の認識である。

- ・序文
- ・目的
- ・第二条: 用語の使用
- ・第三条: 提供機関の保有所有権
- ・第四条: 受領機関の保有所有権
- ・第五条: 受領者の秘密保持義務
- ・第六条: 使用者・使用場所
- ・第七条: 使用条件
- ・第八条: 第三者提供の禁止
- ・第九条: 再分与
- ・第十条: 権利の帰属
- ・第十一条: 商業利用
- ・第十二条: 特許出願
- ・第十三条: 受領者作成物質の取り扱い
- ・第十四条: 保証
- ・第十五条: 損害賠償・免責事項
- ・第十六条: 成果の公表・出所の明示
- ・第十七条: 準拠法
- ・第十八条: 存続条項

英訳は随時進めていく。

参考文献

- ・生物多様性条約サイト <http://www.cbd.int/>
- ・『生物遺伝資源のアクセスと利益配分-生物多様性条約の課題-』(財)バイオインダストリー協会 生物資源総合研究所[監修] 磯崎博司、炭田精造、渡辺順子、田上麻衣子、安藤勝彦[編集] 信山社 (2011)
- ・他